

## 第6回まちづくり懇談会 議事要旨

- 1 日 時 平成27年12月21日（月）午後3時30分～午後4時30分
- 2 場 所 寄りあい処～楽し荘～
- 3 団体名 高根台地区社会福祉協議会
- 4 テーマ 「安心して暮らせるまち」
  - (1) ボランティアについて
  - (2) これからの地区社協について
- 5 次 第
  - (1) 開会の辞
  - (2) 出席者自己紹介
  - (3) 市長挨拶 船橋市長 松戸 徹
  - (4) 活動報告及び懇談
  - (5) 体験活動（ふれあいいいききサロン事業「喫茶“ゆひ”」）

### 【開会の辞】

高根台地区は、2000年から建て替え事業が始まり、以前と比べてまちの雰囲気が変わり、人との交流が少なくなるなどの状況が起きております。

そのような中、私たちに何ができるのかを考え、試行錯誤でやってまいりました。

東日本大震災以降、社会福祉協議会【以下：社協】が多少注目されてきたわけですが、いろいろ活動の最前線に立っている我々がどんなことをやっているのかを知っていただきたいと思います。

### 【市長挨拶】

現在、船橋市の人口が年々増加するなかで、特に高齢者の数が確実に増えており、それに対応できるよう、地域包括ケアシステムや、医師会との連携を含めて準備を進めているところです。

最近、細かな地区別で新しい人口予測を出しました。それによると、中央地区（高根周辺）を中心に北と南でまちの様相が全く違う市ができてしまう状況

になることが予測されています。

特に、北部は高齢化も確実に進んでいくなかで、今後の市民サービスをどのような形で進めるか、地域の状況に即した対応ができるようにすることが、本市の課題となっています。

他の話し合いの場でも言うのですが、今、地区社協なくして市の福祉体制はできないと思っています。なるべく皆様方のニーズに合う形の支援をこれからもしていきたいと思っています。

本日、忌憚のないご意見をいただいたうえで、懇談の中で出た内容は、できること、できないことを検討させていただきます。

---

## 【活動報告及び懇談】

### ●団体

地区社協ができてから、ミニデイサービス、地域福祉まつり、広報、ボランティア育成事業、活動拠点の整備に取り組んできた。

人と人とのつながりを大切にし、いつまでも安心して住み続けられる地域にしたいという想いで、5年前に「寄り合い処～楽し荘～」(以下：楽し荘)を活動拠点とした。

それからは、より一層工夫を凝らして様々な事業を実施している。多彩な事業から多才な人材が生まれることを実感している。

### ○市長

まず、「楽し荘」は凄くきれいで、皆さんが手を入れていただいていることもすばらしいと思った。

今、多彩な事業から多才な人材が生まれるという話があったが、私自身も、世代を超えて人をつなげていくことが大事だと思っており、これからも大事にしたいところだ。

### ●団体

高根台地区における65歳以上の高齢者の割合は、市内地域においても高い位置にいる。

民生委員として、今後、地区全体を見守り切れないうちも出てくると思うので、住民たちとの接点を設けて、住民の力を借りながら、住みよいまちにでき

るよう頑張りたい。

高根台には、ボランティアもお客様も元気になる場が沢山あるが、来場者が多くなり、段々と場所が狭くなってきて心配である。

○市長

なるほど。

●団体

孫を預けている保育園が認可外である。その保育士は子供に懐かれています。すばらしい保育園だと思う。

そこが今度、市に認証されるらしいのだが、定員が約半分に減らされるといふ。そうすると保育園から放り出された子供たちは行き場がない。急に保育園を探そうと思ってもない。市でできることがあったら、ぜひお願いしたい。

○市長

現在、待機児童が非常に多くなっている。新年度は、定員を1,000人以上増やすが、船橋市の場合、増やしても追いつかない状況である。

増加する保育需要に対応するため、一定の基準を満たした無認可の保育園が、認証保育園になると国の補助が受けられ、経営的にも安定できる。では、なぜ定員が半分になるのかということ、子供1人当たりの面積が法律で決まっています、それをクリアしないと認証されない。その為、定員が少なくなってしまう。

順番に認証を進めているが、現在、待機児童のほとんどは0～2歳である。3歳以上の定員は充足しているが、0～2歳の待機児童の数が多く、なかなか追いつかない。

●団体

私たちは、幼稚園入園前の0～3歳までの親子に仲間づくり、居場所ができるよう、6年前から「こあらっ子幼児教室」という親子教室を実施している。

この地域は、近年、子育て世代が増加している。その反面、0歳から保育園に預ける方が多くなったので、子育て仲間、子供が小さい頃に親子で過ごす時間が減っているように感じる。

子育てにおける仲間づくりの環境は、少子化の中で難しくなっていると実感しており、そのような中で、お母さんの支援として昨年からは週1回の預かりも始めた。

我々は、子供を預けて働きたいお母さんだけでなく、自分の時間が欲しいというお母さんもおり、我々は助けがない方を助ける活動をしている。

高齢者が安心して集まれる居場所と、安心して子育てができる場所を同じ施設で行うことは難しいと思う反面、多世代の交流ができる魅力もあると思う。

親子教室に来ている人の中には、保育園に行くまでの間、子供を友達と遊ばせたいと母子・父子家庭の方も通っていたが、一人親だと働かなくてははいけなし、その支援はスタッフも少なく専用の会場も持っていない私たちの力では難しい。

子育て中の親子の居場所、子育て環境を良くする情報発信の場が必要だと感じている。子育て情報は氾濫しているが、本当に子供にとって大切なことに関する情報が入りづらいので、親子教室で子供との向き合い方を一緒に考えたり、子育て仲間との情報交換をしたりしている。

○市長

市では「子育てナビゲーション」を作って紹介しているがいかがか。

●団体

それも併せて紹介している。

●団体

私は、退職を機に、自分にできる社会貢献はないかと模索した。

子供、孫に何かできることがないかと思い調べたら、船橋には「おもちゃ病院」がない。「おもちゃ病院」は全国に多くあり、近隣の市町村にもある。そこで、「船橋市にないなら自分がつくろう」と勉強を始めた。

その後、間もなくして、地区社協の協力を得て、「おもちゃ病院」を立ち上げ、高根台児童ホームを拠点に活動を開始することができた。

その結果、思いのほか皆さんに喜ばれ、現在は高根台・西船・松が丘・薬円台児童ホームのほか、中央・高根台・海老が作公民館で、各イベント団体と共催あるいは協力の形でやっている。

現在、高根台を中心に市内各地に11名程度のスタッフがおり、ボランティアで活動をしている。その方々が、自分の地域で同じことを展開できれば、高齢者の生きがいがいづくりに活かすことができると考える。

子供にとって愛着のあるものは限られており、おもちゃを直してあげると非

常に喜ぶので、こちら側も良いことだと頑張っている。

この活動が新しいきっかけとなり、子供達がおもちゃ修理を通して物を大切にすることを学び、また、おもちゃドクターとの交流により、相互に支え合う心が高まると考える。

現在、年間で、おもちゃの数にして700～800個、人数にして800～1,000人近くのお母さんや子供が「おもちゃ病院」を訪れている。

毎年、利用者のリピーターが増えている反面、スタッフの後継者がなかなかいなくて、「おもちゃ病院」のスタッフが高齢化しており、困っている状況である。

この活動は後世へ継続できると思う。各地区に子供のおもちゃ修理を引き受ける場を市の組織に組み入れることは難しいだろうが、市公認で出来ればボランティアの士気向上のためにいいと思っている。

○市長

来年度は、市内の全小学校で放課後子供教室を実施するが、そこで月に何回か行って、講座を開催するような連携がとれるといいと思う。

例えば、公民館の講座などで先生になっていただくのはいかがか。

●団体

私も、公民館にお願いしようと思っていたところである。

●団体

次に、地域の防災、震災に関して、防災の資料で作った「避難所運営マニュアル」と「ふなばし防災ナビ」がよくできている。

この地域では、十数年前から、毎月1回、防災連絡会議という勉強会を開催しており、全部読み込んでシミュレーションをやっているが、問題になることが多々ある。

現在、避難所が小中学校4カ所、福祉避難所が公民館1カ所の計5カ所しかない。これで足りるかが一番問題である。

勉強会は、どのような震災が起きたとき、どのようなパニック状態になるのか、それに対応するにはどうしたらいいかの検討の場であるが、防災リーダーが多数いなければやっていけないだろうという話になっている。

現在、我々は「防災ボランティア」という言葉を使っているが、いざという

ときには全員が被災者になるので、おそらく形を決めておいたとしてもそれが機能しないということは過去の震災時に経験済みである。

これからも、資格を取得するためには、研修を受けなければいけないとか研修費がかかるなどが考えられるが。

そもそも私どもはそういった資格に関係なく、防災に関する知識や関心、意欲が必要であろう。

この地域では勉強会を毎月1回夜開催して、十数年経つので、細かいところまで知り尽くしているが、それでも次から次へと新しいことが出てくる。

その点について、市で色々と考えていると思うが、例えば、全体で考える場や発言できる場を作っていただけないかというお願いがある。

○市長

防災関係には正解がなく、一日一日、少しずつ前に進めるようにやっているが、例えば仮に、防災関係の資格を取得するにあたって市で助成するとしたら、取得する人はいるか。

●団体

自分のスキルになるので自費で行くのが普通だと思うが、防災関係の資格は金額が高いからいると思う。

○市長

自主防災は、ふだんの活動で声をかけると出てきてもらえるのか。

●団体

非常に難しい。各町会自治会で関心のある方が多く、イベントで来てくれる方は長続きしない。多くの方は、万が一のことなので、そのときは何とかなるし最終的には避難所に行けばいいという考えであろう。

○市長

市で考えている避難所について前と違うところは、避難所にいるより家が崩れない限りは、家で過ごしたほうが現実的という、自宅避難の考え方である。

そういった中で、防災リーダーをつくることは難しいと思うが、地道に防災リーダーの研修を受ける人が増えていけば地域のためになると思う。

阪神淡路大震災の経験者でも、今、自宅で備蓄をしている人は、6割程度と聞いている。経験者でさえそうなので、経験していない人たちに備蓄を徹底さ

せることは難しい。これは言い続けるしかないと思う。

●団体

私たちは、備蓄、自宅避難、トイレと水と食料、これだけは何としても自分でやれと言っている。特に、トイレは猫砂を使えということを徹底的に教えている。

先日は、公民館で行われたボランティアグループの会に講師として招かれ、ビニール袋で御飯炊き、すいとん作り、新聞紙でスリッパの作り方、トイレのことを皆で共有した。

○市長

それはありがたい。

●団体

地域福祉の問題で、この地域は「安心登録カード事業」を実施している。

団地は、UR都市機構との関係があるようで参加していない。しかし、ミニデイには団地の方も見える。「安心登録カード事業」に取り組んでいると、いろいろな情報が汲み取れる。

先ほど、市長が各地域によって、いろいろな政策が必要と言っていたが、高根台も建て替え中止地域と新しく建て替えた地域とで住民の状況に違いがある。

私たちの地域も深く分析して対策を立てていく必要があることを感じており、できれば安心登録カード、電話訪問、はがきによる訪問等、足並み揃えて全地域ができるようになったら素晴らしいと思う。

「安心登録カード事業」で相談に来るのは団地の方が多い。あのシステムが広がっていけば素晴らしいと思うので、市社協にもお願いしているが、ぜひ団地については今後URとの話を行政として深めていただきたい。

※平成28年2月22日現在

高根台団地自治会も「安心登録カード事業」に参加することとなった。これで、高根台地区の町会・自治会全域で連携ができることとなった。

●団体

最後に、他県などにおいて、私たちの社協の活動は素晴らしいと取り上げていただいたことを報告したい。

○市長

地域で実際に活動している方々とお話することは勉強になる。

もっと意見を交換すれば、色々なことができると思うので、こういった機会を極力大事にしたいと思っている。

最後に、今、私がやっていることは、若手の異業種の集まりや小中学校のおやじの会など、人と人をどうやってつなげていくかということ意識しており、それが大事だと思っている。

今日、話を伺った範囲だけでも、色々な分野で活動している人と接触する機会を作りたいと思っている。そういった考えでやっていくので、それぞれの団体の考え方もあると思うが、具体的な提案や、ここは直したほうが良いということがあれば、遠慮なく事務局に言っていただければと思う。

○一同

ありがとうございました。

#### **【体験活動（ふれあいいきいきサロン事業）】**

「喫茶“ゆひ”」のそばを試食させていただきました。

そばは、大変美味しく、おかわりまでいただきました。（事務局談）